

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2019年5月22日 (Vol.153)

「アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック、その絵画と俳句」

「アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック、その絵画と俳句」



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Photolautrec.jpg>

「人間は醜い。けれど人生は美しい。」と言い、人間の美しいばかりとは限らない隠された素顔をえぐり出し、大胆な構図と鮮やかな配色、文字をデザインに組みこんだ新たな感覚でポスターを芸術の域まで高めたトゥールーズ=ロートレック（1864-1901）。

「季語に遊ぶ」では前5回、西洋美術と俳句の組み合わせを試みています。

第6回の今回は『ムーラン・ルーージュのラ・グリユ』『アンバサドルのアリステイド・ブリュアン』『ジャンヌ・アヴリル』など世紀末のパリを彩る夜の街モンマルトルのスターたちを中心に描いた代表作を次々と制作していったロートレック。

その筆はモンマルトルに生きるさまざまな人の内面まで容赦なく、しかし愛情をもって描き出してきました。

名門貴族の家に生まれ、「小さな宝石」と呼ばれた美しい少年が、13歳の時に左の大腿骨を、14歳の時には右の大腿骨を骨折し—この2度の骨折を境としてロートレックの成長—ただし下半身のは完全にとまることとなります。

そのハンディの影響もあってか、ダンサー、娼婦のような夜の世界の女性たちに共感し、描く対象である「人間」に対する真摯な愛情と深い幻滅という矛盾する要素から、どれほど突き放したような作品であっても、そこには人間に対する不断の愛があふれているように感じられます。

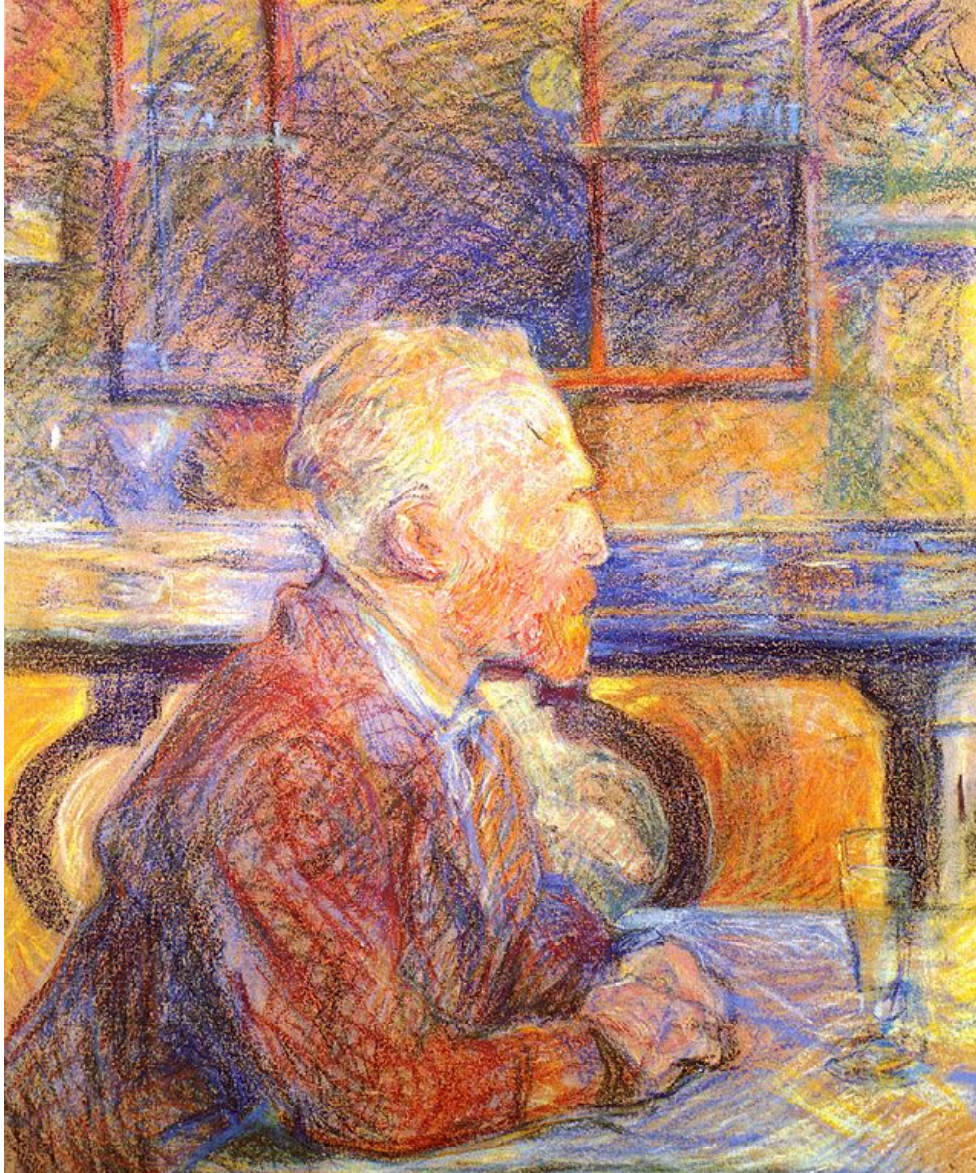
そんな彼の作品を制作時期順に掲載し、その作品に合う俳句を選んでみました。

お楽しみ下さい。

作品の下に制作時期 | 作品詳細 | 所在を記載しています。

俳句の下に作者、生年・没年を記載しています。

1. 『フィンセント・ファン・ゴッホ』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Henri_de_Toulouse-Lautrec_056.jpg
1887年 | パステル、厚紙、54 × 45 cm | ゴッホ美術館

ロートレックとゴッホはパリの同じアトリエに入門し 1886 年 3 月に知り合います。ゴッホはロートレックより 11 歳も年長ですが、フランス語もまだ板につかない貧乏画学生で、質素な牧師一家に生まれ、気むずかしく、貴族の長男として育ったロートレックとはすべての面で対照的でした。都会的、享樂的、社交的なロートレックは何事につけ真摯（しんし）でひたむきで、求道的、理想主義的なゴッホの存在をある意味でわずらわしく感じていましたが、人間として芸術家としてのゴッホの誠実さをよく理解していました。1890 年に、ブリュッセルの二十人会展で、ベルギーのグルーという画家がゴッホを中傷したため、ロートレックは身の不自由もかえりみず、友人の名誉のためにグルーに決闘を申し込んだというエピソードも伝えられています。パリのバーあるいはカフェの一隅に席をとったゴッホの横顔を描いたこの作品は、こうした二人の友情のあかしであると同時に、ロートレックには珍しくパステルという技法でとらえています。色調も斜線を用いた筆触もゴッホの影響がみとめられます。

ここではゴッホを詠んだ句を選びました。

富士は孤高にゴッホの色のみかん採る

加藤知世子(かとう ちよこ) (1909-1986)

季語<みかん>で三冬

ゴッホ在らば画くべき橋の初茜

林翔(はやし しょう) (1914-2009)

季語<初茜>で新年

黒き蝶ゴッホの耳を殺ぎに来る (殺ぎに=そぎに)

角川春樹(かどかわ はるき) (1942-)

季語<黒き蝶>で三夏、<蝶>のみなら春の季語ですが、黒揚羽だと夏の季語に。

2. 『フェルナンド・サーカスにて』



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lautrec_equestrienne_\(at_the_cirque_fernando\)_1887-8.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lautrec_equestrienne_(at_the_cirque_fernando)_1887-8.jpg)
1888年 | キャンバス、油絵、98 × 161 cm | シカゴ美術館

ロートレック初期の代表作の一つで、当時、モンマルトルで人気を集めていたのが、このフェルナンド・サーカス。

少年期から大のサーカスファンであったロートレックが、1880年代に特に夢中になって通い詰めていました。

対角線を横切る馬を後方から眺め、その尾っぽの先で画面を切ることで、観るものに躍動感を与えています。

右の方で、後にロートレックの初恋の相手となる女曲馬師シュザンヌと左の方で鞭をふるう男性（ムッシュー・ロワイヤル）の視線をクロスさせることで、画面に緊張感が生まれています。

画面左端の後ろ向きの人物や、後方の台の上の脚部だけ見える道化師の描写にもスナップショット的なおもしろさがよく出ています。

ここではサーカス、曲馬団を詠んだ句を選んでみました。

クラリネット、遠い月夜の曲馬団

大越吾亦紅(おおこし われもこう) (1889-1965)

季語<月夜>で秋

麦の芽にサーカスの楽とどきけり

加藤三七子(かとう みなこ) (1925-2005)

季語<麦の芽>で初冬

サーカスの来ていたころの赤とんぼ

小澤克己(おざわ かつみ) (1949-2010)

季語<赤とんぼ>で三秋

3. 『ムーラン・ルージュの舞踏会』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Henri_de_Toulouse-Lautrec_005.jpg
1890年 | キャンバス、油絵、100.5 × 150 cm | フィラデルフィア美術館

ムーラン・ルージュを主題とするロートレックの数多くの作品の中でも、規模と内容とも代表的な作品の一つ。

完成後、ここムーラン・ルージュの支配人が購入し、店の入口に飾りました。

画面は五つの層より構成されています。

前景の静止した女性と、画面左端に消えようとする横向きの男性のグループ、中景で軽快なステップを踏む二人、そして後景でこの二人の動きを見るグループ、右端で談笑するグループがそれです。

踊る二人の下に落ちた影もまた二人の躍動感を示す上で効果をあげています。

「ムーラン・ルージュ」のスターや友人など、貴族から娼婦まで総勢 26 人のさまざまな階級の人びとがロートレックの鋭い観察眼によって描き出されています。

ここでは舞踏会を詠んだ句を選んでみました。

舞踏会の待自動車の良夜なる

大野林火(おおの りんか) (1904-1982)

季語<良夜>で仲秋

白夜遡江デッキに舞踏会はあり(遡江=そこう、川を上流にさかのぼること。)

原田青児(はらだ せいじ) (1919-2013)

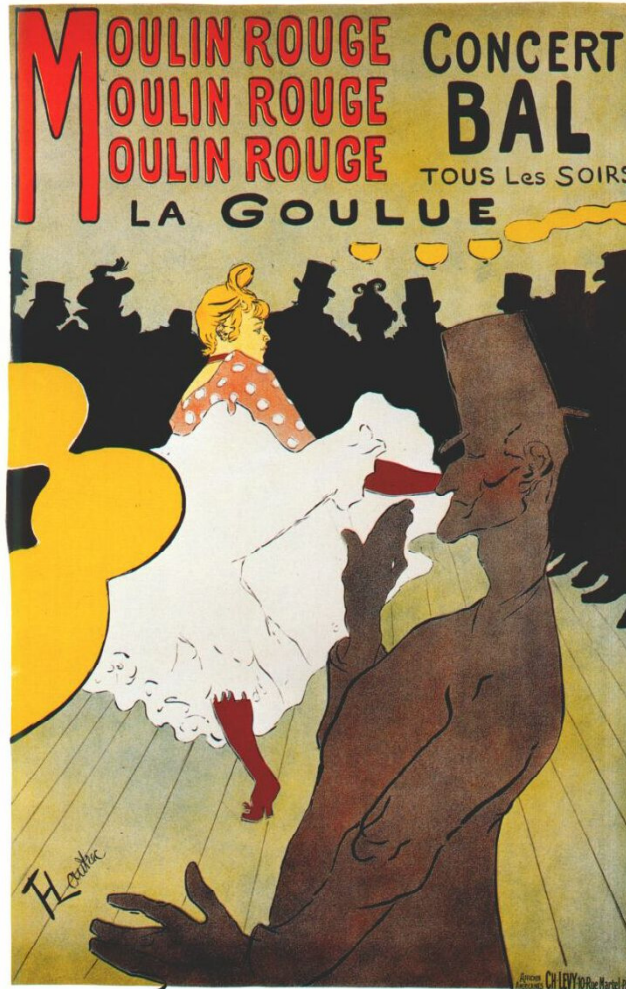
季語<白夜>で仲夏

夏霧や巴里は毎晩舞踏会

皆吉司(みなよし つかさ) (1962-)

季語<夏霧>で三夏

4. 『ムーラン・ルージュのラ・グリユ』



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lautrec_moulin_rouge_la_goulue_\(poster\)_1891.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lautrec_moulin_rouge_la_goulue_(poster)_1891.jpg)
1891年 | リトグラフ、195 × 122 cm | 東京、三菱一号館美術館



Diego Delso [CC BY 3.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/>)]

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Moulin_Rouge-Paris287.jpg

開店から130年も経た現在も「ムーラン・ルージュ」は華やかなレビューを上演するホールとして営業しています。

ロートレックのポスター第一作で、ポスター作家、石版画家としてのロートレックのはなばなしいデビューを飾るにふさわしい記念碑的な作品です。

ムーラン・ルージュ (Moulin Rouge、赤い風車) は 1889 年に開場し、たちまちパリっ子の人気を集め、モンマルトルの象徴的存在となったショーのあるダンスホールのような娯楽施設で、その広告用ポスターです。

ラ・グリュ (La Goulue) は、ダンスの名手で、画面の中央で脚を上げて踊っています。

その手前には、これもまたダンスの名手といわれた「骨なしヴァランタン」が大きくシルエットで描かれています。

ここを訪れる客の中にはロシアの皇太子やウェールズ公 (後のエドワード7世) のような貴顕 (きけん) の士も含まれていました。

このポスターのバックに見える常連たちのシルエットは、それがシルエットであるだけに、はなやかな賑わいをいっそう効果的に感じさせてくれます。

ここではタンゴ、ジルバ、ワルツを詠んだ句を選びました。

ばらは香を放ちダンスはいまタンゴ

大橋敦子(おおはし あつこ) (1924-2014)

季語<ばら>で初夏

ジルバの手くぐって流れ星に乗る

今井聖(いまい せい) (1950-)

季語<流れ星>で三秋

遙かまで円舞曲ステップ黄落期 (円舞曲=ワルツ、黄落期=こうらくき)

仙田洋子(せんだ ようこ) (1962-)

季語<黄落期>で晩秋

5. 『ムーラン・ルージュに入るラ・グリュ』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Toulouse-Lautrec_-_La_Goulue_arrivant_au_Moulin_Rouge.jpg

1892年 | 油彩、79.4 × 59 cm | ニューヨーク近代美術館

ラ・グリユことルイズ・ヴェーベルは、ムーラン・ド・ラ・ギャレットを振り出しにジャルダン・ド・パリ、ムーラン・ルージュなどに出演した人気ダンサー。
ラ・グリユ（大食い）というあだ名は健啖（けんたん）、痛飲で知られ、客に酒をせがんで幾らでも飲み干してしまうことからついたようです。
その生活は節制を欠き、そのためこの絵に描かれた数年後にはスターの座をおります。
その後、サーカスで働いてみたり、ムーラン・ルージュの店の前でチョコレート・ボンボンの売り子をしたりと 60 歳くらいまで現役で働き続け、死に際に神父に、自分のような大食漢は神に許されるのかと、真剣にたずねたという逸話も残っています。
ロートレックはスターの顔立ちもデフォルメして描き、その目、鼻、口もとなど彼女の内面性や将来まで描き出しているようです。
胸元の大きく開いた挑発的な服装や付き人の派手な化粧、鏡に写る無数の照明がムーラン・ルージュの享樂的な賑わいを表現しています。

ここでは「大酒」「大食」を詠んだ句を選んでみました。

大酒に起きてものうき裕かな（裕＝あわせ）

宝井其角(たからい きかく) (1661-1707)

季語<裕>で初夏

栗飯や病人ナガラ大食ヒ

正岡子規(まさおか しき) (1867-1902)

季語<栗飯>で晩秋

どぶろくに身まげ酌むなるおのれ知る（酌む＝くむ）

森川暁水(もりかわ ぎょうすい) (1901-1976)

季語<どぶろく>で仲秋

6. 『アンバサドールのアリスティード・ブリュアン』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Henri_de_Toulouse-Lautrec_002.jpg
1892年 | リトグラフ、150 × 100 cm | 川崎市市民ミュージアム

アリスティード・ブリュアン（1851-1925）は当時のモンマルトルの人気歌手であるとともに作詞、作曲もこなしたシンガーソングライター。

1885年にキャバレー・ミルリトンを自ら開き、このころからロートレックとも親しくなりました。当時ようやく20歳になったばかりのロートレックを初めて娼婦の世界に誘ったのも彼だといわれ、いわばロートレックの悪友の一人でした。

ロートレックは彼のためにかかなりの数のデッサンや油彩画を残しています。

その中でも画家ロートレックの、そして歌手ブリュアンの持ち味をよく生かされているのがこの作品。つば広の帽子にダークブルーのマント、それに朱色のマフラーを平坦な色調で用い、単純明快な画面構成に仕上げている点で日本の浮世絵の影響が感じられる作品です。

ここではブリュアンが身につけていた赤いマフラーから、三冬の季語襟巻、マフラーを詠んだ句を選びました。

伯林の時の襟巻いまは派手（伯林＝ベルリン）

山口青邨（やまぐち せいそん）（1892-1988）

マフラーに星の匂ひをつけて来し

小川軽舟（おがわ けいしゅう）（1961-）

もう戻れないマフラーをきつく巻く

黛まどか（まゆずみ まどか）（1962-）

7. 『ジャンヌ・アヴリル』



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lautrec_jane_avril_at_the_jardin_de_paris_\(poster\)_1893.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Lautrec_jane_avril_at_the_jardin_de_paris_(poster)_1893.jpg)
 1893年 | リトグラフ、130 × 95 cm | 東京、三菱一号館美術館



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Jane_Avril.gif
 ジャンヌ・アヴリルの写真。1893年。

ラ・グリユのあとを受けて、モンマルトルの人気を一身に集めたのがジャンヌ・アヴリル。彼女は高級娼婦とイタリア貴族の子としてこの世に生をうけました。貧しく不遇な環境に育ち、やがて踊り子となりました。ムーラン・ルージュでラ・グリユらと一緒に出演したことをきっかけに人気者になった彼女はロートレックの大のお気に入りモデルで、彼女自身もロートレックに描かれることを楽しんでいました。このポスターは 1893 年開店したばかりのジャルダン・ド・パリにデビューした彼女のために制作されたものです。オーケストラ・ボックスの楽士が手にしたコントラバスの枠の中に彼女を配した大胆で奇抜な構成をし、また人物を故意に中心からずらし対角線状の上下両すみに配しています。楽譜を見る手前の楽士と舞台の上の踊り子の遠近のコントラストや手前から右奥の舞台の袖に至るまでの空間表現もこの作品の大きな特色です。

ここではコントラバスを詠んだ句を選びました。

雪が来るコントラバスに君はなれ

坪内稔典(つぼうち ねんてん) (1944-)

季語<雪>で晩冬

抱き弾くコントラバスの春愁

能村研三(のむら けんぞう) (1949-)

季語<春愁>で三春

紅葉ふるコントラバスを弾くはやさ

石田明 (NON STYLE) (いしだ あきら) (1980-)

季語<紅葉>で晩秋

8. 『イヴェット・ギルベール』 (未完のポスターの下絵)



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Henri_de_Toulouse-Lautrec_Yvette_Guilbert_Gants_noirs.jpg
 1894年 | 着彩、186 × 93 cm | トウールーズ=ロートレック美術館



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Cheret-Yvette-Guilbert.jpg>
 ジュール・シェレ作「イヴェット・ギルベール」。1891年。

イヴェット・ギルベールはラ・グリユ、ジャンヌ・アヴリルに続いてロートレックが熱中した第三のスターです。

ギルベールの方もロートレックの人となりを愛し、また、彼の芸術によき理解を示した数少ない同時代の一人でした。

この作品では、彼女のトレードマークの黒い手袋もさることながら、大胆なデフォルメと誇張を加えたその表情が実に印象的です。

それだけにこの作品を見た彼女の母親がここに描かれた娘の「醜さ」に大きなショックを受けたというのもうなづけます。

同時代のジュール・シェレの作品とはあまりに違うギルベールです。

あまりにダイナミックにデフォルメされた表情がイヴェットの不評を買い、完成に至りませんでした。

しかし、その後アルバム『イヴェット・ギルベール』にロートレックの挿絵が採用され、これにはギルベールも満足したようです。

20歳のとき、役者としてデビュー後、歌手に転身し、スターダムを駆け上がり、辛辣で卑猥なシャンソを語るように歌い、現代シャンソンの母といわれたギルベール。

そんな彼女にちなみ、ここではシャンソを詠んだ句を選んでみました。

ずうつと抱擁ずうつとシャンソンそんな夜長

伊丹三樹彦(いたみ みきひこ) (1920-)

季語<夜長>で三秋

シャンソを聴く薄明の勿忘草 (勿忘草=わすれなぐさ)

きくちつねこ (1922-2009)

季語<勿忘草>で晩春

叱られてゐるよなシャンソン花杏 (花杏=はなあんず)

神戸周子(かんべ しゅうこ) (1936-)

季語<花杏>で晩春

ラ・グリュやジャンヌ・アヴリルが踊っていたムーラン・ルージュに思いを馳せて私も詠んでみました。

フレンチカンカンめいてひなげし揺れる紅

白井芳雄

季語<ひなげし>で三夏

今回は「アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック、その絵画と俳句」をお届けしました。

全体を通じての参考文献、出典：『現代世界美術全集 9 ロートレック』（集英社）（1970年）
1371-536009-3041

高橋明也監修・杉山菜穂子著
『もっと知りたい ロートレック 生涯と作品』（東京美術）
ISBN978-4-8087-0933-4 C0071

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）
ISBN978-4-06-128972-7

『角川俳句大歳時記 新年』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621035-4 C0392

『角川俳句大歳時記 春』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621031-1 C0392

『角川俳句大歳時記 夏』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621032-X C0392

『角川俳句大歳時記 秋』（角川学芸出版）
ISBN978-4-04-621033-3 C0392

『角川俳句大歳時記 冬』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621034-6 C0392

本間美加子
『日本の365日を愛おしむ』（東邦出版）
ISBN978-4-8094-1652-1 C0076

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3F
TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com